

市民と行政とのチームワークで

「夢」の実現を



舞鶴市長
多々見 良三

五老岳から望む青葉山 (12月14日)

新年のごあいさつ

市民の皆様、あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、中・長期的な視点に立つてまちづくりを進めていくための指針とする「新たな舞鶴市総合計画」がスタートして1年余りが経過し、市

民の皆様のご支援をいただきながら、都市像として掲げる「東アジアに躍動する国際港湾・交流都市」に向けたステップを力強く踏みだすことができました。

キーワードは「海・港の活用」

東アジア、とりわけ、環日本海においては、本市はまさしく海からの玄関口であり、

これからのまちの発展におきましても、「海・港の活用」は大きなキーワードになってまいります。

そのような中で、京都舞鶴港と韓国・浦項港間の国際フェリー航路の開設を目指したクルーズ客船の試験運行を京都府との連携により実施し、多くのモニターツアー客にご参加いただくとともに、両地域間の経済交流と発展に寄与するための共同宣言を表明しました。

今後、これらが実を結び、対岸諸国との物流や人流が盛んになり、京都舞鶴港の発展、そして地域の活性化への大きな弾みになるものと確信しています。

また、観光におきましては、交流人口の拡大を目指

し、赤れんが倉庫群を本市の観光拠点となる舞鶴赤れんがパークとして整備したほか、着地型観光の確立を目指し、特産品や観光スポットなど舞鶴ブランドのプロモーション活動に積極的に取り組んでまいりました。

このような「活力あるまちづくり」を推進する都市基盤の整備について、平成26年度に舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道が全線開通し、本市に関わる高速道路ネットワークが完成されることにより、京都府北部に新しい時代が到来することが期待されることであり、本市の主要プロジェクトである国道27号の西舞鶴道路整備や府道小倉西舞鶴線白鳥トンネル区間の4車線化の早期事業化の促進についても、引き続き取り組んでまいりたいと考えています。

「夢」を持つことが大切

また、昨年は、ロンドンオリンピックが開催され、日本人選手の大活躍がメディアにぎわせるとともに、その好成績は日本国民に大きな感動を与えてくれました。アスリート達が、目標に向

かって幾多の困難を克服してきた「努力」や「チームワーク」で掴み取った「夢」の重要性を語り、努力すれば報われる「喜び」や「希望」を感じていました。そして、多くの周りの人達に支えられてきた「感謝の気持ち」を強く持っていることを語っていました。

これらのことは、地域社会で生活を営む上で、また、まちづくりを進めていく上でも、共通していえることであり、今後ますます大切なことになると思っています。

人口減少、少子高齢化、若者の流出など、これまでから向かい合ってきた大きな地域課題がある中で、私は、多くの市民の皆様にご協力いただき、まちに誇りを持ち、子どもや若者が地元に残り、お互いが支え合いながら地域の再生・創造に取り組める環境となるように、積極的にまちづくりを行ってまいります。

「夢」を語り合い、「チームワーク」でまちづくりを

本年は、昭和18年に旧舞鶴市と東舞鶴市が合併後、市制

施行70周年という記念すべき年であり、また、京都舞鶴港築港100周年の年にあたります。

海・港を最大限に活用し、フェリー定期航路の開設を目指すほか、過去最大となる7・7万トン的大型クルーズ客船の入港も決定しており、京都舞鶴港に明るい将来展望を描いているところでもあります。

この節目の年を契機として「舞鶴はひとつ」となつて「元気なまち」への大きな架け橋となる取り組みをさらに進めてまいりたいと思っております。

市民の皆様の「努力」にお応えし、「希望」あふれる未来のまちをイメージしつつ、「夢」を語り合いながらその実現を目指し、市民と行政との確固たる「チームワーク」をもつて、まちづくりにまい進してまいります。本年も、ぜひともお力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。